2026年度

郡山健康科学専門学校
講義概要

メディカルスポーツ
柔道整復学科

2年生

学校法人こおりやま東都学園

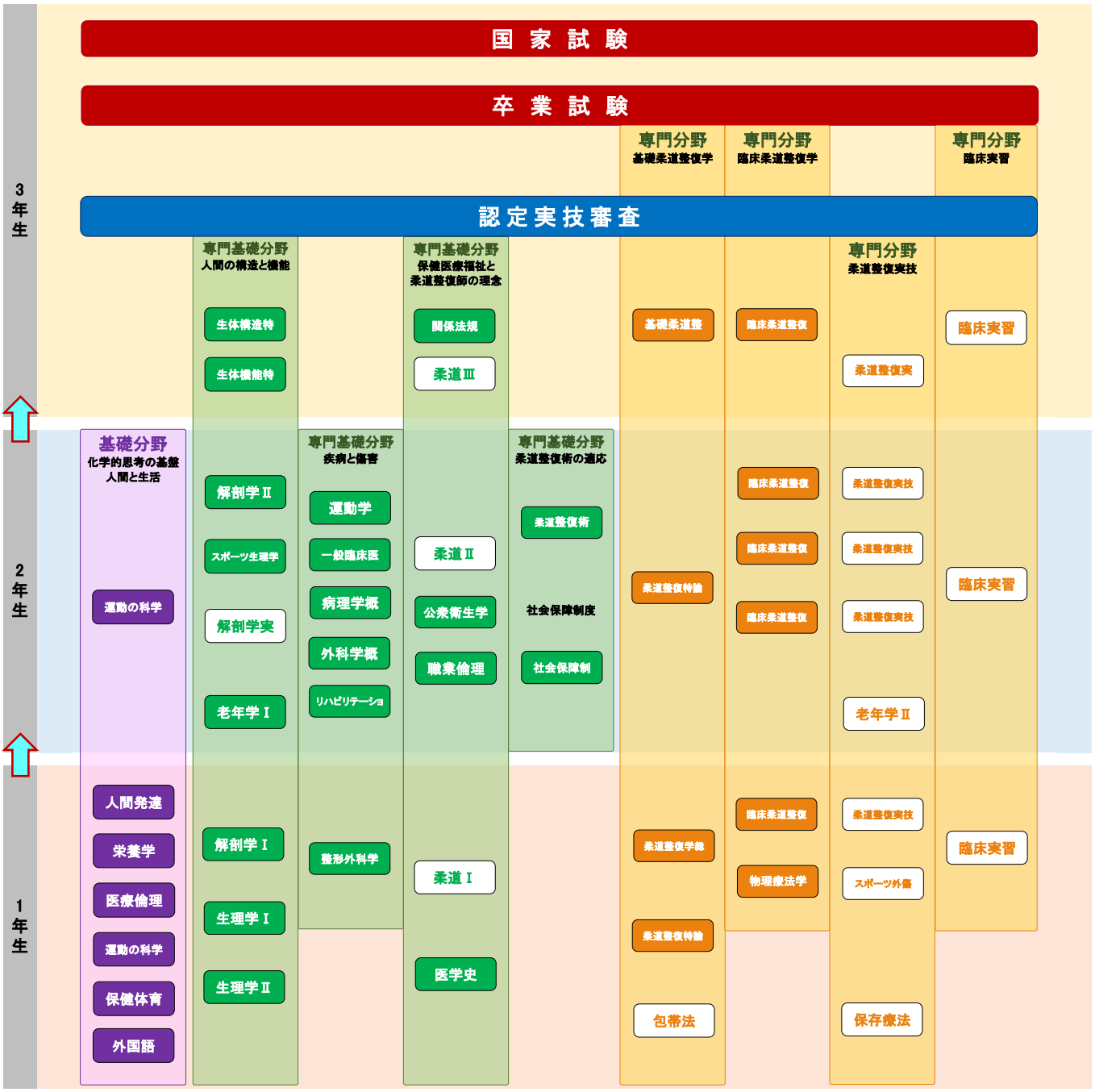
郡山健康科学専門学校　メディカルスポーツ柔道整復学科　2024年度 入学生

◆ ディプロマポリシー

- 柔道整復師に必要な基本的知識･技術を有し，疾患や障害を全人間的に捉えて臨床的推論を行う能力を身につけた人
- 医療の新知見を収集して自己研鑽し，根拠に基づいた医療を行う能力を身につけた人
- 他職種間の連携を図り，円滑なコミュニケーションによるチームアプローチを行う能力を身につけた人
- 高い倫理観と豊かな人間性を備え，社会に貢献する能力を身につけた人

◆ 柔道整復師として獲得すべき到達目標

コミュニケーション能力　チームアプローチの実践　問題対応能力　プロフェッショナリズム



ﾒﾃﾞｨｶﾙｽﾎﾟｰﾂ柔道整復学科　2025年度生　履修一覧

1年		
教育内容	科　目　名	国家試験該当科目
科学的思考の基礎 人間と生活	人間発達学	
	栄養学	
	情報処理概論	
	医療倫理	●
	運動の科学Ⅰ	
	保健体育	
	外国語	
人体の構造と機能	解剖学Ⅰ	●
	生理学Ⅰ	●
	生理学Ⅱ	●
疾病と傷害	整形外科学	●
保健医療福祉と柔道整復の理念	医学史	
	柔道Ⅰ	●
基礎柔道整復学	柔道整復学総論	●
	包帯法	●
	柔道整復特論Ⅰ	●
臨床柔道整復学	臨床柔道整復学Ⅰ	●
	物理療法	●
柔道整復実技	スポーツ外傷予防学	
	保存療法	●
	柔道整復実技Ⅰ	●
臨床実習	臨床実習Ⅰ	●

2年		
教育内容	科　目　名	国家試験該当科目
科学的思考の基礎 人間と生活	運動の科学Ⅱ	
人体の構造と機能	解剖学Ⅱ	●
	解剖学実習	●
	老年学Ⅰ	●
	スポーツ生理学	●
疾病と傷害	運動学	●
	一般臨床医学	●
	病理学概論	●
	外科学概論	●
	リハビリテーション概論	●
柔道整復術の滝応	柔道整復術の適応	●
保健医療福祉と柔道整復の理念	柔道Ⅱ	●
	公衆衛生学	●
	職業倫理	●
社会保障制度	社会保障制度	●
基礎柔道整復学	柔道整復特論Ⅱ	●
臨床柔道整復学	臨床柔道整復学Ⅱ	●
	臨床柔道整復学Ⅲ	●
	臨床柔道整復学Ⅳ	●
柔道整復実技	柔道整復実技Ⅱ	●
	柔道整復実技Ⅲ	●
	柔道整復実技Ⅳ	●
	老年学Ⅱ	●
臨床実習	臨床実習Ⅱ	●

3年		
教育内容	科　目　名	国家試験該当科目
人体の構造と機能	生体構造特論	●
	生体機能特論	●
保健医療と福祉と柔道整復の理念	柔道Ⅲ	●
	関係法規	●
基礎柔道整復学	基礎柔道整復学セミナー	●
臨床柔道整復学	臨床柔道整復学セミナー	●
	臨床的判断(画像理解)	●
柔道整復実技	柔道整復実技セミナー	●
臨床実習	臨床実習Ⅲ	●

1．基礎分野

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
運動の科学Ⅱ	山内　翼	担任

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
ﾒﾃﾞｨｶﾙｽﾎﾟｰﾂ柔道整復学科	2	前期	15(30)	講義	2

【授業の概要・目的】

コーチングの理念と指導法を学び、指導計画やトレーニング方法及びスポーツ傷害予防を習得する。柔道整復師としてのスポーツへ理解を深めることを目的とする。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①グッドコーチに求められる医・科学的知識を習得する。 ②現場・環境に応じたコーチングを学ぶ。 ③スポーツへの理解を深める。	知識・理解 専門職としてのｽｷﾙ・意識

【履修上の注意】

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	グッドコーチに求められる 医・科学的知識	スキルトレーニングを理解する。	ペア・グループ
2	グッドコーチに求められる 医・科学的知識	心のトレーニングを理解する。	ペア・グループ
3	グッドコーチに求められる 医・科学的知識	心のトレーニングを理解する。	ペア・グループ
4	グッドコーチに求められる 医・科学的知識	スポーツに関する医学的知識を理解する。	ペア・グループ
5	グッドコーチに求められる 医・科学的知識	スポーツに関する医学的知識を理解する。	ペア・グループ
6	グッドコーチに求められる 医・科学的知識	スポーツに関する医学的知識を理解する。	ペア・グループ
7	グッドコーチに求められる 医・科学的知識	アンチ・ドーピングを理解する。	ペア・グループ
8	現場・環境に応じたコーチング	コーチング環境の特徴を理解する。	ペア・グループ
9	現場・環境に応じたコーチング	コーチング環境の特徴を理解する。	ペア・グループ
10	現場・環境に応じたコーチング	コーチング環境の特徴を理解する。	ペア・グループ
11	現場・環境に応じたコーチング	ハイパフォーマンススポーツにおける 今日的なコーチングを理解する。	ペア・グループ
12	現場・環境に応じたコーチング	スポーツ組織のマネジメントを理解する。	ペア・グループ
13	現場・環境に応じたコーチング	スポーツ組織のマネジメントを理解する。	ペア・グループ
14	現場・環境に応じたコーチング	障がい者とスポーツを理解する。	ペア・グループ
15	まとめ	総復習をし、知識と技術の定着を図る。	ペア・グループ

期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験 90%	受講態度 10%

【教科書】	公益財団法人日本スポーツ協会 『Reference　Book』
【参考書】	特になし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	予習復習をしっかり行う。

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

2. 専門基礎分野

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
解剖学Ⅱ	勝田　新一郎	担任

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
ﾒﾃﾞｨｶﾙｽﾎﾟｰﾂ柔道整復学科	2	前期	15(30)	講義	2

【授業の概要・目的】

脈管系、消化器系、呼吸器系、泌尿器系、生殖器系および内分泌系を理解し、適切かつ合理的な施術を遂行できるようにするための正しい知識を習得する。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①脈管系、消化器系、呼吸器系に属する器官の種類、構造と機能を学習する。	考え抜く力
②泌尿器系、生殖器系、内分泌系に属する器官の種類、構造と機能を学習する。	問題解決力
③国家試験を視野に解剖学について学習する。	知識・理解
④	
⑤	

【履修上の注意】

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	脈管系1	脈管系の種類、動静脈の構造	個人
2	脈管系2	心臓の構造と働き、心臓に分布する血管と神経 刺激伝導系	個人
3	脈管系3	全身の動脈と静脈、リンパ管の構造と働き	個人
4	消化器系1	消化器の働き	個人
5	消化器系2	口腔腺、歯、舌、咽頭	個人
6	消化器系3	食道、胃、小腸、大腸	個人
7	消化器系4	肝臓と胆嚢、膵臓と腹膜、嚥下	個人
8	呼吸器系1	呼吸器の種類と分類 外鼻、鼻腔と副鼻腔、喉頭、気管と気管支	個人
9	呼吸器系2	肺、胸膜、縦隔	個人
10	泌尿器系1	泌尿器の種類と働き 腎臓の構造と働き	個人
11	泌尿器系2	尿管、膀胱、尿道	個人
12	生殖器系1	胚子の発生	個人
13	生殖器系2	男性生殖器および女性生殖器の構造と働き 子宮粘膜の周期的変化	個人
14	内分泌系1	内分泌系の働き、下垂体	個人
15	内分泌系2	甲状腺、上皮小体、副腎、膵臓、精巣、卵巣、胸腺	個人

期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験　100%	

【教科書】	(公社)全国柔道整復学校協会監修 『解剖学』 第2版 (医歯薬出版)
【参考書】	特になし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	予習復習をしっかり行う。

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
解剖学実習	影山　幾男	担任

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
ﾒﾃﾞｨｶﾙｽﾎﾟｰﾂ柔道整復学科	2	後期	15(30)	実習	1

【授業の概要・目的】

人体について全身的な構造と機能についての知識を学びます。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①筋学・骨学・靭帯学、神経系のうち主要なものを対象として学びます。 ②人が生命を維持し活動していく欠かすことのできない循環系を学びます。 ③内臓の諸器官について位置と構造を学びます。 ④ ⑤	前に踏み出す力 チームで働く力 考え抜く力

【履修上の注意】

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	解剖学オリエンテーション上肢No.1DVD	骨・関節・靭帯・筋・胸部の構造・呼吸に関わる筋	個人 グループ
2	下肢1No.2DVD、下肢2No.3DVD	骨・関節・靭帯・筋・胸部の構造・呼吸に関わる筋	個人 グループ
3	体幹1No.4DVD、体幹2No.5DVD	骨・関節・靭帯・筋・胸部の構造・呼吸に関わる筋	個人 グループ
4	頭頸部1No.6DVD	頭頸部の支持と運動、顔面骨と頭蓋底	個人 グループ
5	頭頸部2No.7DVD	顔面筋と頭皮、脳とその周辺、頭頚部の神経及び血管	個人 グループ
6	口腔・眼・耳No.8DVD	鼻腔・咽頭とその周辺	個人 グループ
7	胸部の臓器・生殖器No.9DVD	心臓・肺・男性生殖器・女性生殖器	個人 グループ
8	腹部臓器No.10DVD	胃・小腸・大腸・肝臓・膵臓・脾臓・腹部血管・泌尿器	個人 グループ
9	解剖学実習講義1	実習に必要な知識の習得	個人 グループ
10	解剖学実習講義2	実習に必要な知識の習得	個人 グループ
11	解剖学実習1	標本館見学1	個人 グループ
12	解剖学実習2	標本館見学2	個人 グループ
13	解剖学実習3	見学実習1	個人 グループ
14	解剖学実習4	見学実習2	個人 グループ
15	解剖学実習5	見学実習3	個人 グループ

期末試験	レポート提出	評価方法	レポート　100%	

【教科書】	特になし
【参考書】	特になし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】予習復習をしっかり行う。

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
老年学Ⅰ	勝田　新一郎	担任

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
ﾒﾃﾞｨｶﾙｽﾎﾟｰﾂ柔道整復学科	2	後期	15(30)	講義	2

【授業の概要･目的】

「老年学」は、高齢者に特有な疾患などを研究対象とする老年医学、実社会における諸問題を研究対象とする老年社会学、老化の機序などを研究対象とする基礎老化学を３つの柱とする学問になります。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①高齢者や長寿社会に関し学ぶ。 ②自然科学から人文社会までの幅広い分野を総合的に学ぶ。 ③自然科学から人文社会までの幅広い分野を学際的に学ぶことを目標とする。 ④ ⑤	知識･理解 創造的思考力

【履修上の注意】

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容･目標(使用教材等)	授業方法
1	老年学と老年医学の基本事項	高齢者の定義・老年度 高齢者人口と平均寿命・健康寿命・老化の概念	個人
2	老化のメカニズムと制御	生物学として・代謝回転・酸化ストレス テロメア・テロメアーゼ・寿命遺伝子・老化制御	個人
3	老年の診方と評価(1)	高齢者の診断・高齢者の総合機能評価 (生活機能・QOL・自立度・認知機能・うつ・意欲・栄	個人
4	老年の診方と評価(2)	高齢者の診断・高齢者の総合機能評価 (生活機能・QOL・自立度・認知機能・うつ・意欲・栄	個人
5	高齢者に特有な症候(1)	老年症候群(1) (誤嚥・歩行・認知機能・せん妄・うつ・失禁・褥瘡・	個人
6	高齢者に特有な症候(2)	老年症候群(2) (誤嚥・歩行・認知機能・せん妄・うつ・失禁・褥瘡・	個人
7	高齢者に特有な症候(3)	臓器変化と老年疾患(1) (循環器・呼吸器・消化器・神経・内分泌・泌尿器・造	個人
8	高齢者に特有な症候(4)	臓器変化と老年疾患(2) (循環器・呼吸器・消化器・神経・内分泌・泌尿器・造	個人
9	高齢者に特有な症候(5)	臓器変化と老年疾患(3) (循環器・呼吸器・消化器・神経・内分泌・泌尿器・造	個人
10	高齢者に特有な症候(6)	臓器変化と老年疾患(4) (循環器・呼吸器・消化器・神経・内分泌・泌尿器・造	個人
11	高齢者に特有な症候(7)	臓器変化と老年疾患(5) (循環器・呼吸器・消化器・神経・内分泌・泌尿器・造	個人
12	高齢者に特有な症候(8)	臓器変化と老年疾患(6) (循環器・呼吸器・消化器・神経・内分泌・泌尿器・造	個人
13	高齢者疾患の臨床に必要な基礎知識	臨床検査・薬物療法・救急疾患対応	個人
14	高齢者の介護と在宅	医療・介護・福祉のサービス 施設ケア・在宅医療、緩和医療・終末期医療	個人
15	これまでの復習	復習とテストの説明	個人

期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験　90% 受講態度　10%

【教科書】	配布資料 （公社）全国柔道整復学校協会　監修　『生理学』　第4版　（医歯薬出版）
【参考書】	特になし （公社）全国柔道整復学校協会　監修　『解剖学』　第2版　（医歯薬出版）

授業時間外に必要な学習の具体的内容	予習復習をしっかり行う。

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
スポーツ生理学	三宅将生、小林大輔	担任

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
ﾒﾃﾞｨｶﾙｽﾎﾟｰﾂ柔道整復学科	2	前期	15(30)	講義	2

【授業の概要・目的】

運動生理学では、運動により生じる生体の生理的反応、すなわち、呼吸器系、循環器系、神経系、骨格筋系の生理学的変化について学習する。また、一回の運動で生じる各器官の生理的応答のみならず、トレーニング効果についても学ぶ。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①スポーツ生理学の基本となる解剖学および生理学をしっかり復習し、理解する。	知識・理解
②運動時の呼吸器系および循環器系の生理的応答について理解する。	問題解決力
③身体各動作における骨格筋のはたらきと神経系による制御について理解する。	論理的思考力
④トレーニングによる効果について理解する。	
⑤	

【履修上の注意】

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	生理学概論	生理学の概要、細胞・組織・器官の構成	個人
2	体液のはたらき	体液の概念(体液量、組成、移動)、生体調節系(神経性・体液性調節)、生体の内部環境と外部環境、恒常性	個人
3	呼吸	呼吸の概念、呼吸器の構造と機能、呼吸運動	個人
4	呼吸	換気力学、肺気量分画、ガス交換とガスの運搬	個人
5	呼吸	呼吸の調節機構、肺循環、異常呼吸	個人
6	循環	循環の概念、心臓と血管の構造と機能	個人
7	循環	心筋の電気現象、心電図	個人
8	循環	心収縮と心周期、血圧、心拍出量、末梢血管抵抗	個人
9	循環	各器官への血流の配分、微小循環、局所循環	個人
10	循環	短期および長期血圧調節機構	個人
11	体温調節	外層温度と核心温度、産熱と放熱散、体温調節、発熱と解熱	個人
12	末梢系神経	末梢神経系(自律神経系、体性神経系)	個人
13	中枢系神経	脊髄、脳幹、小脳の機能	個人
14	中枢系神経	大脳の機能局在と連合機能、脳波と睡眠、意識の保持、学習と記憶	個人
15	中枢系神経	本能行動と情動行動、大脳基底核、中枢と末梢の伝導路、脳脊髄液	個人

期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験 90% 受講態度 10%

【教科書】	特になし
【参考書】	特になし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	スポーツ生理学および一年生で学習した解剖学、生理学の復習

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
運動学	前田 信吾	担任

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
ﾒﾃﾞｨｶﾙｽﾎﾟｰﾂ柔道整復学科	2	前期	15(30)	講義	2

【授業の概要・目的】

身体運動や構造、力学を理解し、適切かつ合理的な施術を遂行できるようにするための正しい知識を習得する。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①運動学の基礎知識を習得すること。 ②臨床現場で遭遇する症候について鑑別診断できること。 ③国家試験に合格できる知識をつけること。 ④ ⑤	知識・理解 専門職としてのｽｷﾙ・意識

【履修上の注意】

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	運動学の目的	運動とは 運動学の領域と目的	個人
2	運動の表し方	運動行動の概念 運動の表示方法・関節運動の種類	個人
3	身体運動と力学	身体運動に関与する力・仕事と力学的エネルギー 人体における単一機会構造・運動の法則	個人
4	運動器の構造と機能	骨の構造と機能 関節の構造と機能・骨格筋の構造と機能	個人
5	神経の構造と機能1	神経細胞・末梢神経 中枢神経・感覚と知覚	個人
6	神経の構造と機能2	神経細胞・末梢神経 中枢神経・感覚と知覚	個人
7	運動感覚	運動の感覚 運動の制御機構	個人
8	反射と随意運動	反射 随意運動	個人
9	四肢の運動	上肢帯の運動 下肢帯の運動	個人
10	体幹の運動	頸椎・胸椎・腰椎の運動 顔面および頭部の運動	個人
11	姿勢	姿勢の分類 重心・立位姿勢	個人
12	歩行	歩行周期・歩行の運動学的分析 歩行時の筋活動	個人
13	運動発達	神経組織の成熟 乳幼児期の運動発達	個人
14	運動学習		個人
15	これまでの復習		個人

期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験 90% 受講態度 10%

【教科書】	(公社)全国柔道整復学校協会　監修 『運動学』 第3版 (医歯薬出版)
【参考書】	特になし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】予習復習をしっかり行う。

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
一般臨床医学	挟間　章博	担任

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
ﾒﾃﾞｨｶﾙｽﾎﾟｰﾂ柔道整復学科	2	後期	15(30)	講義	2

【授業の概要・目的】

柔道整復術は西洋医学とでは哲学、診断作法、治療法などが異なるため、これを直接応用することはできない。しかし、西洋医学の考え方を学習することで、将来のより良い施術を実施するのに役立つことを理解する。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①診断法を学ぶ。 ②判断する基礎力を習得する。 ③知識を理解し施術に役立てる。 ④ ⑤	知識・理解

【履修上の注意】

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	診察概論・医療面接	診察の意義、診察の進め方、医療面接の意義と方法	個人
2	視診	視診の意義と方法	個人
3	視診・打診・聴診	体各部位の視診 打診・聴診の意義と方法	個人
4	触診	触診の意義と方法	個人
5	生命徴候	体温、血圧、脈拍、呼吸	個人
6	感覚検査	感覚検査の意義	個人
7	反射検査	表在反射、深部腱反射、病的反射、クローヌス(間代) 自律神経反射	個人
8	代表的な臨床症状	発熱、出血傾向、リンパ節腫脹、意識障害、チアノーゼ、関節痛、浮腫、肥満、やせ	個人
9	検査法	生命徴候の測定、生理機能検査、検体検査、運動機能検査	個人
10	呼吸器疾患 循環器疾患	総論、呼吸器各疾患 総論、循環器各疾患	個人
11	消化器疾患	総論、消化器各疾患	個人
12	代謝疾患 内分泌疾患	総論、代謝の各疾患(糖代謝、脂質代謝、尿酸代謝) 総論、内分泌器各疾患	個人
13	血液・造血器疾患 腎尿路疾患	総論、尿検査、血球検査、血液凝固、臨床化学検査、内分泌検査、免疫検査、腫瘍マーカー、感染症関連	個人
14	神経疾患	総論、神経系各疾患	個人
15	感染症 その他	総論、感染症、性病 リウマチ性疾患、アレルギー性疾患、免疫不全症	個人

期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験　100%

【教科書】	(公社)全国柔道整復学校協会　監修 『一般臨床医学』 第3版 (医歯薬出版)
【参考書】	特になし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	知識をより確実にする努力を常に心がける

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
病理学概論	石野　竜平	担任

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
ﾒﾃﾞｨｶﾙｽﾎﾟｰﾂ柔道整復学科	2	前期	15(30)	講義	2

【授業の概要・目的】

正常である解剖学・生理学・生化学からの変化により、異常な状態となった病気の原因解明、
病気がどうして生じるかの解明、病気による体の変化がどのようにして起こるかの解明する。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①病気を発生とそれに伴う体の変化を学習する。 ②各病気の内容を学習する。 ③国家試験を視野に病理学について学習する。 ④ ⑤	知識・理解 論理的思考力

【履修上の注意】

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	病理学の総論・疾病とは	研究の方法と種類・疾病と症候などの意義と分類	個人
2	全身の形態について(解剖学教科書)	正常な形態の復習(解剖学・組織学)	個人
3	全身の機能について(生理学教科書)	正常な機能の復習(生理学・生化学)	個人
4	細胞障害 退行性病変	細胞障害 萎縮・変性・代謝・壊死・死	個人
5	循環障害	充血・うっ血・虚血・出血 血栓症と梗塞	個人
6	血液について(解剖学・生理学教科書)	正常な血液と血液疾患	個人
7	正常な免疫系について	免疫機能の復習	個人
8	免疫異常・アレルギー	免疫・免疫不全・自己免疫疾患・アレルギー	個人
9	進行性病変	進行性病変の定義・肥大と過形成・再生と化生 創傷治癒・組織内異物の処理・移植	個人
10	炎症	炎症の一般と分類	個人
11	腫瘍(1)	腫瘍の概念	個人
12	腫瘍(2)	腫瘍の分類	個人
13	先天性異常	遺伝子・奇形	個人
14	病因	内因・外因	個人
15	これまでの復習	復習とテストの説明	個人

期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験　90% 受講態度　10%

【教科書】	(公社)全国柔道整復学校協会　監修 『病理学概論』 第3版 (医歯薬出版) 配布資料
【参考書】	特になし (公社)全国柔道整復学校協会　監修 『生理学』 第4版 (医歯薬出版)
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	予習復習をしっかり行う。

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
外科学概論	熊澤　真理子	担任

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
ﾒﾃﾞｨｶﾙｽﾎﾟｰﾂ柔道整復学科	2	後期	15(30)	講義	2

【授業の概要・目的】

膨大な外科学の内容のうち、特に外科学の総論を理解し、適切かつ合理的な施術を遂行できるようにするための正しい知識を習得する。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①損傷、炎症、腫瘍などの基本的な外科疾患について学習する。	考え抜く力
②基本的な外科疾患の診断法、治療法や出血について学習する。	問題解決力
③国家試験を視野に外科学について学習する。	知識・理解
④	
⑤	

【履修上の注意】

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	外科学とは、損傷	外科学の歴史・外科医の立場・損傷の分類 外傷の部位診断と重症度判定・交通外傷	個人
2	創傷・熱傷	創傷の治癒過程・創傷の処置と感染予防 熱傷の原因と分類・熱傷範囲の診断・深度	個人
3	炎症と外科感染症	炎症の定義・分類・外科感染症(丹毒・毛嚢炎・腫瘍・蜂巣炎・ひょう疽 骨髄炎・結核・梅毒・真菌症・ガス壊疽)	個人
4	腫瘍	概念・組織形成・成因(発癌)・分類・診断・治療・疫学 良性腫瘍の種類・悪性腫瘍の種類・腫瘍の発育形式	個人
5	ショック	循環血液量減少性ショック・心原性ショック 血液分布異常性ショック・ショックの緊急処置	個人
6	輸血、輸液	輸血の基礎知識・輸血の適応・輸血の実際 輸液の基礎知識・輸液の定義・目的・適応・高カロリー輸液	個人
7	消毒と滅菌	主な消毒薬と特長・皮膚の消毒 器械・器材・環境の消毒・滅菌	個人
8	手術	手術の分類 皮膚切開法・止血術・結紮縫合法・穿刺術	個人
9	麻酔	概要・歴史・全身麻酔法・全身麻酔の導入・術中管理 ・合併症・局所麻酔法	個人
10	移植と免疫	自家移植・同系移植・同種移植・異種移植 各種代表的臓器移植(腎・肝・心)	個人
11	出血と止血	出血の定義・出血の種類・止血の仕組み 外出血・血尿・内出血・止血法	個人
12	心肺蘇生法	心肺蘇生法の実際・AED(自動体外式除細動器)・ 救急蘇生法の連携	個人
13	各論	脳神経外科疾患、甲状腺・頸部疾患	個人
14	各論	胸壁・呼吸器疾患、心臓・脈管疾患	個人
15	各論	乳腺疾患、腹部外科疾患	個人

期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験　100%	

【教科書】	(公社)全国柔道整復学校協会　監修 『外科学概論』 改訂第4版 (医歯薬出版)
【参考書】	特になし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】予習復習をしっかり行う。

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
リハビリテーション概論	前田 信吾	担任

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
ﾒﾃﾞｨｶﾙｽﾎﾟｰﾂ柔道整復学科	2	後期	15(30)	講義	2

【授業の概要・目的】

リハビリテーションにおける対象疾患や障害像、特に運動器系疾患を中心に学び、評価・治療アプローチの概要を学ぶ。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①リハビリテーションの概念、障害について理解する。 ②リハビリテーションの障害を理解するために基礎となる機能解剖や運動学を理解する。 ③障害像を把握するための評価項目について学ぶ。 ④代表的な疾患について、リハビリテーションの評価から治療の実際を理解する。 ⑤リハビリテーションに関わる制度および職種を知る。	知識・理解 専門職としてのｽｷﾙ・意識 論理的思考力

【履修上の注意】

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	リハビリテーションの概念と歴史	リハビリテーションの概念と歴史的な経緯を知る	個人ワーク
2	リハビリテーション医学	リハビリテーション医学の概要を知る。障害とは、障害構造、ICFについて学ぶ	個人ワーク
3	リハビリテーションの基礎医学(1)	関節の運動、上下肢の各関節の機能解剖、機能障害について学ぶ	個人ワーク
4	リハビリテーションの基礎医学(2)	障害に対するリハビリテーションの治療項目について学ぶ	個人ワーク
5	リハビリテーションにおける評価(1)	リハビリテーションで使用される評価項目について学ぶ	個人ワーク
6	リハビリテーションにおける評価(2)	運動器系疾患の医療画像について学ぶ	個人ワーク
7	リハビリテーションにおける治療手段(1)	運動療法、物理療法の具体的方法について学ぶ	個人ワーク
8	リハビリテーションにおける治療手段(2)	作業療法、言語聴覚療法の概要を学ぶ	個人ワーク
9	神経系障害のリハビリテーションの実際(1)	脳卒中のリハビリテーションについて学ぶ	個人ワーク
10	神経系障害のリハビリテーションの実際(2)	脊損、認知症のリハビリテーションについて学ぶ	個人ワーク
11	運動器系障害のリハビリテーションの実際(1)	関節リウマチ・変形性膝関節症・肩関節周囲炎のリハビリテーションについて学ぶ	個人ワーク
12	運動器系障害のリハビリテーションの実際(2)	骨折、頚肩腕障害、腰痛、スポーツ障害のリハビリテーションについて学ぶ	個人ワーク
13	内部障害のリハビリテーションの実際	心疾患、呼吸器疾患のリハビリテーションについて学ぶ	個人ワーク
14	小児疾患のリハビリテーションの実際	脳性麻痺、二分脊椎などのリハビリテーションについて学ぶ	個人ワーク
15	リハビリテーションの関連領域 リハビリテーションと保健医療福祉の関連	リハビリテーションに関わる多職種連携について学ぶ、介護保険制度を学ぶ	個人ワーク

期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験 90% 受講態度 10%

【教科書】	(公社)全国柔道整復師協会　監修 『リハビリテーション医学』 改訂第4版 (南江堂)
【参考書】	特になし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	授業前に該当箇所のテキストを通読する(30分程度)

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
柔道整復術の適応(1/2)	前田　信吾	担任

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
ﾒﾃﾞｨｶﾙｽﾎﾟｰﾂ柔道整復学科	2	通年	30(60)	講義	2

【授業の概要・目的】

柔道整復師が業務を行なうにあたり、患者に対する医療安全の観点から、対象となる運動器疾患が業務範囲にあるかどうかを適切に判断し、柔道整復術を適切に実施できる能力を習得する。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①柔道整復術を学ぶ。 ②柔道整復術が適応する外傷、適応しない疾患について学ぶ。 ③各外傷や疾患に対し適応のボーダーラインを学ぶ。 ④ ⑤	情報活用能力 問題解決力

【履修上の注意】

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	柔道整復術の適応(総論)1	柔道の起源と歴史	個人
2	柔道整復術の適応(総論)2	柔道整復師の起源と歴史	個人
3	柔道整復術の適応(総論)3	柔道整復術の起源と歴史	個人
4	柔道整復術の適応(各論)1	頸部・胸部の臨床徒手検査法	個人
5	柔道整復術の適応(各論)2	頸部・胸部の臨床徒手検査法	個人
6	柔道整復術の適応(各論)3	肩関節・上腕の臨床徒手検査法	個人
7	柔道整復術の適応(各論)4	肘関節・前腕の臨床徒手検査法	個人
8	柔道整復術の適応(各論)5	肘関節・前腕の臨床徒手検査法	個人
9	柔道整復術の適応(各論)6	手関節・手部の臨床徒手検査法	個人
10	柔道整復術の適応(各論)7	手関節・手部の臨床徒手検査法	個人
11	柔道整復術の適応(各論)8	腰部の臨床徒手検査法	個人
12	柔道整復術の適応(各論)9	腰部の臨床徒手検査法	個人
13	柔道整復術の適応(各論)10	股関節・大腿の臨床徒手検査法	個人
14	柔道整復術の適応(各論)11	膝関節・下腿の臨床徒手検査法	個人
15	柔道整復術の適応(各論)12	足関節・足部の臨床徒手検査法	個人

期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験　100%

【教科書】	(公社)全国柔道整復学校協会　監修 『医療の中の柔道整復』 (南江堂) (公社)全国柔道整復学校協会　監修 『柔道整復学・理論編』 改訂第7版 (南江堂)
【参考書】	特になし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	解剖学、柔道整復学の基礎知識

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
柔道整復術の適応(1/2)	前田　信吾	担任

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
ﾒﾃﾞｨｶﾙｽﾎﾟｰﾂ柔道整復学科	2	通年	30(60)	講義	2

【授業の概要・目的】

柔道整復師が業務を行なうにあたり、患者に対する医療安全の観点から、対象となる運動器疾患が業務範囲にあるかどうかを適切に判断し、柔道整復術を適切に実施できる能力を習得する。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①柔道整復術について習得する。 ②柔道整復術が適応する外傷、適応しない疾患について学ぶ。 ③各外傷や疾患に対し適応のボーダーラインを学ぶ。 ④鑑別診断の重要性について学ぶ。 ⑤	知識・理解 専門職としてのｽｷﾙ・意識 情報活用能力

【履修上の注意】

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	柔道整復術の適否	適応判断の必要性、適応の判断、非適応が疑われる症状と所見について学ぶ。	ペア・グループ
2	損傷に類似した症状を示す疾患①	内臓疾患の投影を疑う疼痛、腰痛を伴う疾患について学ぶ。	ペア・グループ
3	損傷に類似した症状を示す疾患②	化膿性の炎症、軟部組織の圧迫損傷について学ぶ。	ペア・グループ
4	血流障害を伴う損傷 末梢神経損傷を伴う損傷①	血流障害・末梢神経損傷が疑われる場合の判断と対応について学ぶ	ペア・グループ
5	末梢神経損傷を伴う損傷② 合併症と後遺症の予見	骨折、脱臼、骨折脱臼を伴わない損傷、外固定に起因する末梢神経損傷について学ぶ。	ペア・グループ
6	脱臼骨折への対処	脱臼骨折が疑われる場合の判断と対応について学ぶ。	ペア・グループ
7	外出血を伴う組織損傷	外出血がある場合の判断と対応について学ぶ。	ペア・グループ
8	病的骨折及び病的脱臼への対処	病的骨折および脱臼が疑われる場合の判断と対応について学ぶ。	ペア・グループ
9	意識障害を伴う損傷・疾患	意識障害がみられる場合の判断と対応について学ぶ。	ペア・グループ
10	脊髄症状のある損傷・疾患	脊髄障害がみられる場合の判断と対応について学ぶ。	ペア・グループ
11	呼吸運動障害を伴う損傷・疾患	異常呼吸がみられる場合の判断と対応について学ぶ。	ペア・グループ
12	内臓損傷の合併が疑われる疾患 高エネルギー外傷への対処	内臓損傷が疑われる場合の判断と対応、 高エネルギー外傷患者の判断と対応について学ぶ。	ペア・グループ
13	医用画像の理解と読影①	単純X線の概要とその特徴と理解・対象疾患について学ぶ。	ペア・グループ
14	医用画像の理解と読影②	磁気共鳴検査、超音波画像装置の概要とその特徴について理解する。	ペア・グループ
15	総まとめ 業務範囲の再確認	鑑別診断による保存療法の限界と観血療法への判断能力ができる。	ペア・グループ
期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験 90% 受講態度 10%

【教科書】	(公社)全国柔道整復学校協会　監修 『施術の適応と医用画像の理解』 (南江堂)
【参考書】	特になし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	解剖学、柔道整復学の基礎知識

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
柔道Ⅱ	刈屋　遵	担任

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
ﾒﾃﾞｨｶﾙｽﾎﾟｰﾂ柔道整復学科	2	前期	15(30)	実習	1

【授業の概要・目的】

講道館柔道の目標とするところは、人格、精神の向上を技の向上よりも重んずることにある。柔道の修行は、攻撃防御の練習によって、己を完成し世を補益することが究極の目的である。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①柔道姿勢を学ぶ。 ②受身、組手を学ぶ。 ③寝技・立技を修得する。 ④投の形を修得する。 ⑤	前に踏み出す力 知識・理解 専門職としてのｽｷﾙ・意識

【履修上の注意】

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	受身	後方・前方・側方・前方回転受身を理解する。	ペア
2	寝技	正しい寝技を修得する。	ペア
3	立技	正しい立技を修得する。	ペア
4	投の形　1	手技　浮落を修得する。	ペア
5	投の形　2	手技　背負投を修得する。	ペア
6	投の形　3	手技　肩車を修得する。	ペア
7	投の形　4	腰技　浮腰を修得する。	ペア
8	投の形　5	腰技　払腰を修得する。	ペア
9	投の形　6	腰技　釣込腰を修得する。	ペア
10	投の形　7	足技　送足払を修得する。	ペア
11	投の形　8	腰技　支釣込足を修得する。	ペア
12	投の形　9	腰技　内股を修得する。	ペア
13	投の形　10	投の形を修得する。	ペア
14	実技試験		ペア
15	総復習	礼法、受身、投技、寝技、投の形を確認する。	ペア

期末試験	実技試験	評価方法	実技試験　90% 受講態度　10%

【教科書】	特になし
【参考書】	特になし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	日頃の健康管理を十分にして、欠席しないように努める。

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
公衆衛生学	熊澤　真理子	担任

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
ﾒﾃﾞｨｶﾙｽﾎﾟｰﾂ柔道整復学科	2	前期	15(30)	講義	2

【授業の概要・目的】

公衆衛生学は、組織された地域社会の努力を通して、疾病を予防し、生命を延長し、身体的・精神的機能の増進をはかる科学であり技術である。さらに、人間や生活についての理解を深めるとともに、社会や環境が人間の健康にどのような影響があるのか、また人間の健康を保持増進するために社会や環境はどうあるべきかについて学習する。

【学習目標(到達目標)】

①地域の公衆衛生活動の推進者となる柔道整復師の役割を理解する。
②柔道整復師の役割を理解し、それについて述べることができる。
③正確な知識と医療従事者としての真摯な態度をもつことができる。
④適切な保健医療活動を実践できる能力をもつことができる。
⑤医療人としての対処方法をおこなうことができる。

【受講して得られる力】

知識・理解
専門職としてのｽｷﾙ・意識
論理的思考力

【履修上の注意】 本講義は、すべてPowerPointを使用して行う。毎回、講義資料2を配布し、使用する。毎回、講義後に小テストを配布し、次回講義時に提出する

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	1　衛生学・公衆衛生学の概念 （オリエンテーション等も含む）	衛生学の目的を説明できる。 事前学習:Syllabusを読み、健康の定義とはなにかについて調べておくこと。	個人
2	2　健康の保持増進と疾病予防	健康の概念と疾病予防について説明できる。 事前学習:一次予防・二次予防・三次予防とはなにかについて調べておくこと。	個人
3	3　感染症対策(1)	感染症の予防策と流行の拡大防止策について説明できる。 事前学習:感染症成立の条件とはなにかについて調べておくこと。	個人
4	3　感染症対策(2)	感染症の予防策と流行の拡大防止策について説明できる。 事前学習:感染症法とはなにかについて調べておくこと。	個人
5	3　感染症対策(3)	感染症の予防策と流行の拡大防止策について説明できる。 事前学習:HIVとはなにかについて調べておくこと。	個人
6	4　消毒　4-2　健康教育	消毒方法について説明できる。 事前学習:理学的消毒法とはなにかについて調べておくこと。タバコの害について説明することができる。	個人
7	5　学校保健	集団レベルの疾病予防と健康管理(学校保健)を説明できる。 事前学習:学校保健の対象とはなにかについて調べておくこと。	個人
8	6　産業保健	集団レベルの疾病予防と健康管理(産業保健)を説明できる。 事前学習:働く人々の健康とはなにかについて調べておくこと。	個人
9	7　母子保健	母子保健統計と主な母子保健施策について説明できる。 事前学習:母子保健法とはなにかについて調べておくこと。	個人
10	8　環境衛生(環境保健)	環境による健康への影響、環境基準と環境汚染について説明できる。 事前学習:地球規模の環境問題とはなにかについて調べておくこと。	個人
11	9　生活環境・食品衛生活動	国民の栄養と食品の安全についての問題点と制度を概説できる。 事前学習:水道水質基準とはなにかについて調べておくこと。	個人
12	10　成人・高齢者保健	成人、高齢者、障害者のおかれた社会環境を説明できる。 事前学習:がん対策と高齢化率とはなにかについて調べておくこと。	個人
13	11　精神保健	精神保健福祉活動の現状と動向を説明できる。 事前学習:精神障害とはなにかについて調べておくこと。	個人
14	12　地域保健と国際保健 13　衛生行政と保健医療の制度	集団レベルの疾病予防と健康管理を説明できる。国際協力の仕組みについて概説できる。わが国の保健・医療制度を説明できる。事前学習:国際協力と地域保健法とはなにかについて調べておくこと。	個人
15	14　医療の倫理と安全の確保 15　疫学	安全の確保について説明できる。 主な保健医療統計・疫学について説明できる。事前学習:医療事故と有病率とはなにかについて調べておくこと。	個人

期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験　80% 小テスト　20%

【教科書】	(公社)全国柔道整復師協会　監修 『衛生学・公衆衛生学』 改訂第6版 （南江堂）
【参考書】	図説　国民衛生の動向　2020/2021　厚生労働統計協会

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 事後学習:第1回講義小テストから第15回講義小テストまでを解答できるようにしておくこと。

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	メール連絡

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
職業倫理	後藤　優弥	担任

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
ﾒﾃﾞｨｶﾙｽﾎﾟｰﾂ柔道整復学科	2	前期	15(30)	講義	1

【授業の概要・目的】
近年問題となっている柔道整復師による不正請求を根絶するために、不正請求の概要や療養費請求の仕組みについて学習する
柔道整復師が職業倫理を学ぶべき背景について理解し、柔道整復師のみならず社会での在り方について理解する。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①なぜ職業を行ううえで倫理観が必要なのか理解する。 ②広義において職業倫理が必要であることを認識する。 ③柔道整復師が業務を行う上で必要な職業倫理について理解する。 ④保健医療を担う一端として、適切な保険請求について理解する。 ⑤柔道整復師の保険の仕組みについて理解する。	問題解決力

【履修上の注意】

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	倫理とは	倫理を学ぶ意味、倫理と道徳の違い	個人
2	柔道整復療養費①	現物給付と現金給付、受領委任払いと償還払い	個人
3	柔道整復療養費②	支給対象、施術管理者の要件、請求までの流れ	個人
4	不正請求①	なぜ不正請求が起こるのか？	個人
5	不正請求②	不正請求の種類・パターン	個人
6	不正請求③	亜急性外傷、受領委任取り扱い中止措置	個人
7	不正請求④	患者ごとの償還払いへの変更	個人
8	事例検討(1)	適切に保険請求を行うためには、どのようにしたらよいか グループでディスカッションを行う	グループ
9	事例紹介	医療事故と医療過誤、問われる責任	グループ
10	事例紹介	インフォームドコンセント、守秘義務、個人情報	グループ
11	事例紹介	医療契約、債務不履行と不法行為	グループ
12	事例検討(2)	広告制限についてグループでディスカッションを行う	グループ
13	事例検討(3)	SNS投稿についてグループでディスカッションを行う	グループ
14	事例検討(4)	テーマに沿ってグループでディスカッションを行う	グループ
15	まとめ	これまでの復習	個人

期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験 80% 受講態度 20%

【教科書】	(公社)全国柔道整復師協会　監修 『社会保障制度と柔道整復師の職業倫理』 (医歯薬出版)
【参考書】	特になし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】予習復習をしっかり行う。

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
社会保障制度	菅原　好秀	担任

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
ﾒﾃﾞｨｶﾙｽﾎﾟｰﾂ柔道整復学科	2	後期	15(30)	講義	1

【授業の概要・目的】

疫病、負傷、分娩、死亡、老齢その他困窮の原因に対して、保険あるいは公の負担で経済保障などを行うことで公衆衛生および社会福祉の向上を図り、国民が文化生活を営めるような状況を踏まえて、柔道整復師として必要な社会保障制度を理解することを目的とする。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①社会保障制度における貧困の多様性を理解し、情報を活用して問題点を抽出することができる。	情報活用能力
②生活保護の概要を理解し、柔道整復師として専門職として活用することができる。	専門職としてのｽｷﾙ・意識
③公的保険制度の概要を学び、柔道整復師として創造的に活用することができる。	創造的思考力
④保険医療制度の概要を学び、柔道整復師として論理的に活用することができる。	論理的思考力
⑤社会保障制度の現状と課題を学び、柔道整復師として活用することができる。	問題解決力

【履修上の注意】

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	現代社会における社会保障制度について	社会保障制度を取り巻く環境の変化について学びます。	個人
2	社会保障の概念	わが国の社会保障の概念と範囲について学びます。	個人
3	社会保障の理念について	自由権の確立と社会権について学びます。	個人
4	社会保障の役割と意義について	自助・共助・公助・互助について学びます。	個人
5	社会保障の対象について	ライフサイクルと社会保障について学びます。	個人
6	社会保障制度の発展について	救貧施策と社会保険について学びます。	個人
7	社会保障の財源と費用について	社会保障に要する費用と財源の関係について学びます。	個人
8	社会保険と社会扶助について	社会保険の概念と範囲について学びます。	個人
9	公的保険と民間保険について	社会保障と企業保障・個人保障について学びます。	個人
10	年金保険制度について	年金制度の意義と内容について学びます。	個人
11	医療保障制度について	医療保険制度の概要と仕組みについて学びます。	個人
12	介護保険制度について	介護保険制度の創設と意義について学びます。	個人
13	労働保険制度について	労働者災害補償保険制度の内容と課題について学びます。	個人
14	社会福祉制度について	生活保護制度の意義と内容について学びます。	個人
15	社会手当制度について	社会手当の意義と児童手当について学びます。	個人

期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験　50% 受講態度　50%

【教科書】	『社会福祉学習双書』編集委員会編『社会福祉学習双書　社会保障論2023』全国社会福祉協議会 (公社)全国柔道整復学校協会　監修『社会保障制度と柔道整復師の職業倫理』医歯薬出版株式会社
【参考書】	特になし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	講義のキーワードを中心に教科書の該当部分を読み、疑問点を調べておくこと。

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

３．専門分野

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
柔道整復特論Ⅱ(1/2) ※実務経験のある教員等による授業科目	藤井　智貴 整形外科(柔道整復師)4年勤務	担任

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
ﾒﾃﾞｨｶﾙｽﾎﾟｰﾂ柔道整復学科	2	通年	30(60)	講義	2

【授業の概要・目的】

柔道整復師として必要な解剖学、柔道整復理論の知識を復習し、知識を深める。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①柔道整復師として必要な解剖学の知識を復習する。 ②柔道整復理論の総論の知識を復習する。 ③柔道整復理論の頭部から体幹の骨折を学ぶ。 ④ ⑤	問題解決力 知識・理解 情報活用能力

【履修上の注意】

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	オリエンテーション	国家試験の説明・授業進行について	個人
2	柔道整復理論	構造系を身につける。	グループ
3	柔道整復理論	骨格系を身につける。	グループ
4	柔道整復理論	骨格筋系を身につける。	グループ
5	柔道整復理論	末梢神経系を身につける。	グループ
6	柔道整復理論	頭蓋骨について学ぶ。	グループ
7	柔道整復理論	顔面頭蓋骨折について学ぶ。	グループ
8	柔道整復理論	上位頸椎骨折について学ぶ。	グループ
9	柔道整復理論	中下位頸椎骨折について学ぶ。	グループ
10	柔道整復理論	上部胸椎棘突起骨折について学ぶ。	グループ
11	柔道整復理論	胸椎の椎体骨折について学ぶ。	グループ
12	柔道整復理論	下位腰椎椎体圧迫骨折について学ぶ。	グループ
13	柔道整復理論	チャンス骨折について学ぶ。	グループ
14	柔道整復理論	腰椎椎体破裂骨折について学ぶ。	グループ
15	柔道整復理論	腰椎肋骨突起骨折について学ぶ。	個人

期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験　90% 受講態度　10%

【教科書】	(公社)全国柔道整復師協会　監修 『柔道整復学・理論編』 改訂第7版 (南江堂)
【参考書】	特になし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	解剖学、生理学などの基礎医学知識

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
柔道整復特論Ⅱ(2/2) ※実務経験のある教員等による授業科目	藤井　智貴 整形外科(柔道整復師)4年勤務	担任

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
ﾒﾃﾞｨｶﾙｽﾎﾟｰﾂ柔道整復学科	2	通年	30(60)	講義	2

【授業の概要・目的】

柔道整復師として必要な解剖学、柔道整復理論の知識を復習し、知識を深める。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①柔道整復師として必要な解剖学の知識を復習する。 ②柔道整復理論の総論の知識を復習する。 ②柔道整復理論の知識を深める、身につける。 ④ ⑤	問題解決力 知識・理解 情報活用能力

【履修上の注意】

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	復習柔道整復理論	構造系・筋骨格系・末梢神経	グループ
2	柔道整復理論総論	総論　骨折①を身につける。	グループ
3	柔道整復理論総論	総論　骨折②を身につける。	グループ
4	柔道整復理論総論	総論　骨折③を身につける。	グループ
5	柔道整復理論総論	総論　骨折④を身につける。	グループ
6	柔道整復理論総論	総論　脱臼①を身につける。	グループ
7	柔道整復理論総論	総論　脱臼②を身につける。	グループ
8	柔道整復理論総論	総論　脱臼③を身につける。	グループ
9	柔道整復理論総論	総論　軟部組織損傷①を身につける。	グループ
10	柔道整復理論総論	総論　軟部組織損傷②を身につける。	グループ
11	柔道整復理論総論	総論　軟部組織損傷③を身につける。	グループ
12	柔道整復理論総論	総論　治療法①を身につける。	グループ
13	柔道整復理論総論	総論　治療法②を身につける。	グループ
14	柔道整復理論総論	総論　治療法③を身につける。	グループ
15	柔道整復理論総論	柔道整復理論総論の総復習、小テスト	個人

期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験　90% 受講態度　10%

【教科書】	(公社)全国柔道整復師協会　監修 『柔道整復学・理論編』 改訂第7版 (南江堂)
【参考書】	特になし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	解剖学、生理学などの基礎医学知識

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
臨床柔道整復学Ⅱ（脱臼）(1/2) ※実務経験のある教員等による授業科目	三上　将貴 接骨院（柔道整復師）6年勤務	担任

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数（時間）】	【授業形態】	【単位】
ﾒﾃﾞｨｶﾙｽﾎﾟｰﾂ柔道整復学科	2	通年	30(60)	講義	2

【授業の概要・目的】

脱臼の概説、分類、整復法、固定法、後療法について知識を習得する。

【学習目標（到達目標）】	【受講して得られる力】
①脱臼の各論について内容を理解し、対処法、整復法、固定法が行えるようにする。 ②脱臼の各論について内容を理解し、その他の外傷に対する治療法との違いを習得する。 ③脱臼について基本的な内容を理解し、臨床に対応できる知識を習得する。 ④ ⑤	知識・理解 問題解決力 専門職としてのｽｷﾙ・意識

【履修上の注意】

回数	授業のテーマ（担当教員）	授業の内容・目標（使用教材等）	授業方法
1	胸鎖関節脱臼	概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。	個人
2	肩鎖関節脱臼	概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。	個人
3	肩関節前方脱臼　その①	概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。	個人
4	肩関節前方脱臼　その②	概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。	個人
5	反復性肩関節脱臼	概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。	個人
6	その他の肩関節脱臼	概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。	個人
7	肘関節脱臼	概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。	個人
8	橈骨頭単独脱臼	概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。	個人
9	肘内障	概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。	個人
10	手関節部の脱臼	概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。	個人
11	月状骨脱臼	概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。	個人
12	CM関節脱臼	概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。	個人
13	MP関節脱臼	概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。	個人
14	PIP・DIP関節脱臼	概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。	個人
15	上肢の脱臼	上肢の脱臼を総合的に理解する。	個人

期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験 80%	小テスト 10%
			受講態度 10%	

【教科書】	（公社）全国柔道整復師協会　監修 『柔道整復学・理論編』 改訂第7版 （南江堂）
【参考書】	特になし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	解剖学、生理学などの基礎医学知識		
【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
臨床柔道整復学Ⅱ（脱臼）(2/2) ※実務経験のある教員等による授業科目	三上　将貴 接骨院（柔道整復師）6年勤務	担任

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数（時間）】	【授業形態】	【単位】
ﾒﾃﾞｨｶﾙｽﾎﾟｰﾂ柔道整復学科	2	通年	30(60)	講義	2

【授業の概要・目的】

脱臼の概説、分類、整復法、固定法、後療法について知識を習得する。

【学習目標（到達目標）】	【受講して得られる力】
①脱臼の各論について内容を理解し、対処法、整復法、固定法が行えるようにする。 ②脱臼の各論について内容を理解し、その他の外傷に対する治療法との違いを習得する。 ③脱臼について基本的な内容を理解し、臨床に対応できる知識を習得する。 ④ ⑤	知識・理解 問題解決力 専門職としてのｽｷﾙ・意識

【履修上の注意】

回数	授業のテーマ（担当教員）	授業の内容・目標（使用教材等）	授業方法
1	股関節脱臼　その①	概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。	個人
2	股関節脱臼　その②	概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。	個人
3	股関節脱臼　その③	概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。	個人
4	膝蓋骨脱臼	概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。	個人
5	膝関節脱臼	概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。	個人
6	足部の脱臼　その①	概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。	個人
7	足部の脱臼　その②	概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。	個人
8	下肢の脱臼	下肢の脱臼を総合的に理解する。	個人
9	顎関節脱臼	概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。	個人
10	頸椎脱臼	概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。	個人
11	胸・腰椎脱臼	概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。	個人
12	頭部・体幹の脱臼	頭部・体幹の脱臼を総合的に理解する。	個人
13	脱臼まとめ　その①	全身の脱臼を総合的に理解する。	個人
14	脱臼まとめ　その②	全身の脱臼を総合的に理解する。	個人
15	脱臼まとめ　その③	全身の脱臼を総合的に理解する。	個人

期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験 80%	小テスト 10%
			受講態度 10%	

【教科書】	（公社）全国柔道整復師協会　監修 『柔道整復学・理論編』 改訂第7版 （南江堂）
【参考書】	特になし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	解剖学、生理学などの基礎医学知識

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
臨床柔道整復学Ⅲ（骨折上肢）(1/2) ※実務経験のある教員等による授業科目	片桐 秀樹 整形外科（柔道整復師）6年勤務、接骨院（柔道整復師）26年勤務	担任

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数（時間）】	【授業形態】	【単位】
ﾒﾃﾞｨｶﾙｽﾎﾟｰﾂ柔道整復学科	2	通年	30(60)	講義	2

【授業の概要・目的】

上肢骨折の概要、分類、症状、整復法、固定法、後療法についての知識を習得し、鑑別診断の理解も深める。

【学習目標（到達目標）】	【受講して得られる力】
①骨折上肢の各論について内容を理解し、対処法、整復法、固定法が行えるようにする。 ②骨折上肢の各論について内容を理解し、その他の外傷に対する治療法との違いを習得する。 ③骨折上肢について基本的な内容を理解し、臨床に対応できる知識を習得する。 ④ ⑤	知識・理解 専門職としてのｽｷﾙ・意識 問題解決力

【履修上の注意】

回数	授業のテーマ（担当教員）	授業の内容・目標（使用教材等）	授業方法
1	鎖骨骨折	概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。	個人
2	鎖骨骨折	概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。	個人
3	肩甲骨骨折	概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。	個人
4	肩甲骨骨折	概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。	個人
5	上腕骨近位端部骨折 （骨頭、、解剖頚）	概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。	個人
6	上腕骨外科頚骨折	概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。	個人
7	上腕骨外科頚骨折、骨端線離開	概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。	個人
8	上腕骨近位端部骨折 （大結節、小結節）	概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。	個人
9	上腕骨骨幹部骨折	概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。	個人
10	上腕骨骨幹部骨折	概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。	個人
11	上腕骨顆上骨折	概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。	個人
12	上腕骨顆上骨折	概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。	個人
13	上腕骨外顆骨折	概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。	個人
14	上腕骨内側上顆骨折	概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。	個人
15	上腕部骨折まとめ	概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。	個人

期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験 100%

【教科書】	（公社）全国柔道整復師協会　監修 『柔道整復学・理論編』 改訂第7版 （南江堂）
【参考書】	特になし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	解剖学、生理学などの基礎医学知識

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
臨床柔道整復学Ⅲ（骨折上肢）(2/2) ※実務経験のある教員等による授業科目	片桐 秀樹 整形外科（柔道整復師）6年勤務、接骨院（柔道整復師）26年勤務	担任

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数（時間）】	【授業形態】	【単位】
ﾒﾃﾞｨｶﾙｽﾎﾟｰﾂ柔道整復学科	2	通年	30(60)	講義	2

【授業の概要・目的】

上肢骨折の概要、分類、症状、整復法、固定法、後療法についての知識を習得し、鑑別診断の理解も深める。

【学習目標（到達目標）】	【受講して得られる力】
①骨折上肢の各論について内容を理解し、対処法、整復法、固定法が行えるようにする。 ②骨折上肢の各論について内容を理解し、その他の外傷に対する治療法との違いを習得する。 ③骨折上肢について基本的な内容を理解し、臨床に対応できる知識を習得する。 ④ ⑤	知識・理解 専門職としてのｽｷﾙ・意識 問題解決力

【履修上の注意】

回数	授業のテーマ（担当教員）	授業の内容・目標（使用教材等）	授業方法
1	橈骨近位端部骨折 （橈骨頭、橈骨頚部）	概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。	個人
2	肘頭骨折	概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。	個人
3	橈骨単独、ガレアジ、モンテギア骨折	概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。	個人
4	橈骨単独、ガレアジ、モンテギア骨折	概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。	個人
5	前腕両骨骨幹部骨折	概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。	個人
6	橈骨遠位端部骨折 （コーレス、スミス）	概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。	個人
7	橈骨遠位端部骨折 （コーレス、スミス）	概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。	個人
8	橈骨遠位端部骨折 （ショーファー、バートン）	概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。	個人
9	手根骨骨折 （舟状骨骨折）	概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。	個人
10	手根骨骨折 （月状骨、その他手根骨骨折）	概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。	個人
11	中手骨骨折 （ボクサー）	概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。	個人
12	中手骨骨折 （骨幹部、ベネット）	概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。	個人
13	指骨骨折 （基節骨、中節骨、末節骨）	概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。	個人
14	マレットフィンガー	概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。	個人
15	前腕～手指骨折まとめ	総まとめ	個人

期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験 100%

【教科書】	（公社）全国柔道整復師協会　監修 『柔道整復学・理論編』 改訂第7版 （南江堂）
【参考書】	特になし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】解剖学、生理学などの基礎医学知識

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
臨床柔道整復学Ⅳ(骨折下肢)(1/2) ※実務経験のある教員等による授業科目	小野 博司 接骨院(柔道整復師)29年勤務	担任

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
ﾒﾃﾞｨｶﾙｽﾎﾟｰﾂ柔道整復学科	2	通年	30(60)	講義	2

【授業の概要・目的】

胸部骨折と下肢の骨折の概要・分類・症状・整復法・固定法・後療法についての知識を身に付け活用できるようにする。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①胸部骨折と下肢の骨折についての知識を学び身に付ける。 ②胸部骨折と下肢の骨折についての知識を深める。 ③胸部骨折と下肢の骨折についての知識を臨床に応用できるようにする。 ④ ⑤	知識・理解 問題解決力 考え抜く力 情報活用能力

【履修上の注意】

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	胸部の骨折	肋骨骨折の概説、分類、症状の理論を理解する。	個人
2	胸部の骨折	肋骨骨折の整復、固定の理論を理解する。	個人
3	胸部の骨折	肋軟骨骨折の概説、分類、症状の理論を理解する。	個人
4	胸部の骨折	肋軟骨骨折の整復、固定の理論を理解する。	個人
5	胸部の骨折	胸骨骨折の概説、分類、症状の理論を理解する。	個人
6	胸部の骨折	胸骨骨折の整復、固定の理論を理解する。	個人
7	骨盤の骨折	骨盤単独骨折の概説、分類、症状、整復、固定の理論を理解する。	個人
8	骨盤の骨折	骨盤輪骨折概説、分類、症状、整復、固定の理論を理解する。	個人
9	大腿骨骨折	大腿骨近位端部骨折の概説、分類、症状の理論を理解する。	個人
10	大腿骨骨折	大腿骨近位端部骨折の整復、固定の理論を理解する。	個人
11	大腿骨骨折	大腿骨骨幹部骨折の概説、分類、症状の理論を理解する。	個人
12	大腿骨骨折	大腿骨骨幹部骨折の整復、固定の理論を理解する。	個人
13	大腿骨骨折	大腿骨遠位端部骨折の概説、分類、症状の理論を理解する。	個人
14	大腿骨骨折	大腿骨遠位端部骨折の整復、固定の理論を理解する。	個人
15	総復習	胸部・骨盤・大腿骨の骨折の復習をし理解を深める。	個人

期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験 80% 受講態度 20%

【教科書】	(公社)全国柔道整復師協会　監修 『柔道整復学・理論編』 改訂第7版 (南江堂)
【参考書】	特になし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	教科書をよく読むこと

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
臨床柔道整復学Ⅳ(骨折下肢)(2/2) ※実務経験のある教員等による授業科目	小野 博司 接骨院(柔道整復師)29年勤務	担任

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
ﾒﾃﾞｨｶﾙｽﾎﾟｰﾂ柔道整復学科	2	通年	30(60)	講義	2

【授業の概要・目的】

胸部骨折と下肢の骨折の概要・分類・症状・整復法・固定法・後療法についての知識を身に付け活用できるようにする。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①胸部骨折と下肢の骨折についての知識を学び身に付ける。	知識・理解
②胸部骨折と下肢の骨折についての知識を深める。	問題解決力
③胸部骨折と下肢の骨折についての知識を臨床に応用できるようにする。	考え抜く力
④	情報活用能力
⑤	

【履修上の注意】

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	膝蓋骨骨折	膝蓋骨骨折の概説、分類、症状の理論を理解する。	個人
2	膝蓋骨骨折	膝蓋骨骨折の整復、固定の理論を理解する。	個人
3	下腿骨骨折	下腿骨近位端部骨折の概説、分類、症状の理論を理解する。	個人
4	下腿骨骨折	下腿骨近位端部骨折の整復、固定の理論を理解する。	個人
5	下腿骨骨折	下腿骨骨幹部骨折の概説、分類、症状の理論を理解する。	個人
6	下腿骨骨折	下腿骨骨幹部骨折の整復、固定の理論を理解する。	個人
7	下腿骨骨折／足関節脱臼骨折	下腿骨遠位端部骨折および足関節の脱臼骨折の概説、分類、症状の理論を理解する。	個人
8	下腿骨骨折／足関節脱臼骨折	下腿骨遠位端部骨折および足関節の脱臼骨折の整復、固定の理論を理解する。	個人
9	足根骨骨折	足根骨骨折の概説、分類、症状の理論を理解する。	個人
10	足根骨骨折	足根骨骨折の整復、固定の理論を理解する。	個人
11	足・足趾骨折	中足骨骨折の概説、分類、症状の理論を理解する。	個人
12	足・足趾骨折	中足骨骨折の整復、固定の理論を理解する。	個人
13	足・足趾骨折	趾骨骨折の概説、分類、症状の理論を理解する。	個人
14	足・足趾骨折	趾骨骨折の整復、固定の理論を理解する。	個人
15	総復習	下肢の骨折の復習をし理解を深める。	個人

期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験 80% 受講態度 20%

【教科書】	(公社)全国柔道整復師協会　監修 『柔道整復学・理論編』 改訂第7版 (南江堂)
【参考書】	特になし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	教科書をよく読むこと

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
柔道整復実技Ⅱ（脱臼）(1/2) ※実務経験のある教員等による授業科目	三上　将貴 接骨院(柔道整復師)6年勤務	担任

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
ﾒﾃﾞｨｶﾙｽﾎﾟｰﾂ柔道整復学科	2	通年	30(60)	実習	2

【授業の概要・目的】

脱臼の応急処置をするために、症状、整復法、固定法を学ぶ。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①転位方向を正確に理解し、整復操作を理解する。 ②固定肢位（角度）と再発予防を理解する。 ③後療法プログラムを考える力を身につける。 ④ ⑤	知識・理解 問題解決力 考え抜く力 専門職としてのｽｷﾙ・意識

【履修上の注意】

回数	授業のテーマ（担当教員）	授業の内容・目標（使用教材等）	授業方法
1	肩鎖関節脱臼①	症状、転位の確認、整復操作、固定材料の作成する	ペア・グループ
2	肩鎖関節脱臼②	固定法（テーピング）、後療法のプログラム作成する	ペア・グループ
3	肩関節脱臼①	症状、転位の確認、整復操作、固定材料の作成する	ペア・グループ
4	肩関節脱臼②	固定法　後療法のプログラム作成する	ペア・グループ
5	肘関節脱臼①	症状、転位の確認、整復操作、固定材料の作成する	ペア・グループ
6	肘関節脱臼②　肘内障	固定法、後療法のプログラム作成する	ペア・グループ
7	手指PIP関節脱臼①	症状、転位の確認、整復操作を学ぶ	ペア・グループ
8	手指PIP関節脱臼②	症状・転位の確認、整復法・固定法を学ぶ	ペア・グループ
9	第1指MP関節脱臼①	症状、転位の確認、整復操作、固定材料の作成を行う	ペア・グループ
10	その他上肢の脱臼 （手指MP、CM、DIP）	症状・転位の確認、整復法・固定法を学ぶ	ペア・グループ
11	顎関節・股関節脱臼	症状、転位の確認、整復操作、固定材料の作成を行う	ペア・グループ
12	膝蓋骨・膝関節・脱臼	症状・転位の確認、整復法・固定法を学ぶ	ペア・グループ
13	総復習	各脱臼の固定、整復の復習を行う	ペア
14	実技試験		ペア
15	解説・再試験		ペア

期末試験	実技試験	評価方法	実技試験　80% 受講態度　10%	授業への貢献　10%

【教科書】	（公社）全国柔道整復師協会　監修 『柔道整復学・実技編』 改訂第2版 （南江堂）
【参考書】	特になし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	解剖学　運動器の基礎医学知識、柔道整復理論

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
柔道整復実技Ⅱ（脱臼）(2/2) ※実務経験のある教員等による授業科目	三上　将貴 接骨院(柔道整復師)6年勤務	担任

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数（時間）】	【授業形態】	【単位】
ﾒﾃﾞｨｶﾙｽﾎﾟｰﾂ柔道整復学科	2	通年	30(60)	実習	2

【授業の概要・目的】

脱臼の応急処置をするために、症状、整復法、固定法を学ぶ。

【学習目標（到達目標）】	【受講して得られる力】
①転位方向を正確に理解し、整復操作を理解する。 ②固定肢位（角度）と再発予防を理解する。 ③後療法プログラムを考える力を身につける。 ④ ⑤	知識・理解 問題解決力 考え抜く力 専門職としてのｽｷﾙ・意識

【履修上の注意】

回数	授業のテーマ（担当教員）	授業の内容・目標（使用教材等）	授業方法
1	足関節、足部、足趾脱臼	症状、転位の確認、整復操作、固定を学ぶ	ペア・グループ
2	体幹、下肢脱臼まとめ	症状、転位の確認、整復操作、固定を学ぶ	ペア・グループ
3	肩脱臼まとめ （肩鎖、肩関節）	整復操作、固定の復習を学ぶ	ペア・グループ
4	肩脱臼まとめ （肩鎖、肩関節）	整復操作、固定の復習を学ぶ	ペア・グループ
5	肘脱臼まとめ （肘関節、肘内障）	整復操作、固定の復習を学ぶ	ペア・グループ
6	手指脱臼まとめ （MP、PIP関節）	整復操作、固定の復習を学ぶ	ペア・グループ
7	肩鎖関節脱臼復習+口頭試問対策 （認定実技形式）	症状、転位、整復法、固定法の確認 口頭試問の内容確認を行う	ペア・グループ
8	肩関節脱臼復習+口頭試問対策 （認定実技形式）	症状、転位、整復法、固定法の確認 口頭試問の内容確認を行う	ペア・グループ
9	肘関節脱臼復習+口頭試問対策 （認定実技形式）	症状、転位、整復法、固定法の確認 口頭試問の内容確認を行う	ペア・グループ
10	肘内障復習+口頭試問対策 （認定実技形式）	症状、転位、整復法、固定法の確認 口頭試問の内容確認を行う	ペア・グループ
11	手指PIP関節脱臼復習+口頭試問対策 （認定実技形式）	症状、転位、整復法、固定法の確認 口頭試問の内容確認を行う	ペア・グループ
12	肩鎖関節脱臼・肩脱臼整復、固定	整復操作、固定の復習を行う	ペア・グループ
13	総復習	各脱臼の固定、整復の復習を行う	ペア
14	実技試験	実技試験	ペア
15	実技試験 解説・再試験		ペア

期末試験	評価方法		
実技試験	実技試験	80%	授業への貢献 10%
	受講態度	10%	

【教科書】	（公社）全国柔道整復師協会　監修 『柔道整復学・実技編』 改訂第2版 （南江堂）
【参考書】	特になし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	解剖学　運動器の基礎医学知識、柔道整復理論

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
柔道整復実技Ⅲ(1/2)	刈屋　遵	担任

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
ﾒﾃﾞｨｶﾙｽﾎﾟｰﾂ柔道整復学科	2	後期	30(60)	実習	2

【授業の概要・目的】

上肢骨折の症状を理解し、整復法、固定法を修得する。

【学習目標(到達目標)】
①転位方向を正確に理解し、整復操作が実施できる。
②固定肢位(角度)と再発予防を実施できる。
③後療法プログラムを立案できる。
④
⑤

【受講して得られる力】
知識・理解
問題解決力
考え抜く力
専門職としてのｽｷﾙ・意識

【履修上の注意】

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	鎖骨骨折(概要)	症状、転位を理解し、整復操作を説明する。	グループ
2	鎖骨骨折(整復)	整復操作を理解し、身につける。	グループ
3	鎖骨骨折(整復)	整復操作を実施する。	グループ
4	鎖骨骨折(固定)	固定材料の準備をし、実施する。	グループ
5	鎖骨骨折(リング固定)	固定材料の準備をし、実施する。	グループ
6	鎖骨骨折(厚紙固定)	固定材料の準備をし、実施する。	グループ
7	上腕骨外科頸骨折(整復)	症状、転位を理解し、整復操作を説明する。	グループ
8	上腕骨外科頸骨折(整復)	整復操作を理解し、身につける。	グループ
9	上腕骨外科頸骨折(固定)	固定材料の準備をし、実施する。	グループ
10	上腕骨外科頸骨折(固定)	固定材料の準備をし、実施する。	グループ
11	上腕骨顆上骨折(整復)	症状、転位を理解し、整復操作を説明する。	グループ
12	鎖骨骨折(整復・固定)	整復操作、固定法を実施する。	グループ
13	上腕骨外科頸骨折(整復・固定)	症状、転位を理解し、整復操作を説明する。	個人
14	実技試験	実技試験	個人
15	解説・再試験		個人

期末試験	実技試験	評価方法	実技試験　100%

【教科書】	(公社)全国柔道整復師協会　監修 『柔道整復学・実技編』 改訂第2版 (南江堂)
【参考書】	特になし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	解剖学　運動器の基礎医学知識、柔道整復理論		
【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
柔道整復実技Ⅲ(2/2)	刈屋　遵	担任

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
ﾒﾃﾞｨｶﾙｽﾎﾟｰﾂ柔道整復学科	2	後期	30(60)	実習	2

【授業の概要・目的】

上肢骨折の症状を理解し、整復法、固定法を修得する。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①転位方向を正確に理解し、整復操作が実施できる。 ②固定肢位(角度)と再発予防を実施できる。 ③後療法プログラムを立案できる。 ④ ⑤	知識・理解 問題解決力 考え抜く力 専門職としてのｽｷﾙ・意識

【履修上の注意】

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	上腕骨顆上骨折(整復)	整復操作を理解し、身につける。	ペア
2	上腕骨顆上骨折(固定)	固定材料の準備をし、実施する。	ペア
3	上腕骨顆上骨折(固定)	固定材料の準備をし、実施する。	ペア
4	コーレス骨折(整復)	整復操作を理解し、身につける。	ペア
5	コーレス骨折(固定)	固定材料の準備をし、実施する。	ペア
6	コーレス骨折(固定)	固定材料の準備をし、実施する。	ペア
7	上腕骨骨折(固定)	ミッテルドルフ固定を準備し、実施する。	ペア
8	ボクサー骨折(整復・固定)	整復操作を身につけ、固定を実施する。	ペア
9	ボクサー骨折(整復・固定)	整復操作を身につけ、固定を実施する。	ペア
10	舟状骨骨折	キャスト固定を準備し、実施する。	ペア
11	舟状骨骨折	キャスト固定を準備し、実施する。	ペア
12	マレットフィンガー	レナサーム固定を準備し、実施する。	ペア
13	上肢骨折(整復・固定)	上肢骨折の整復操作を身につけ、固定を実施する。	ペア
14	実技試験	実技試験	ペア
15	解説・再試験 指骨骨折(固定)	固定を準備し、実施する。	ペア
期末試験	実技試験	評価方法	実技試験　100%

【教科書】	(公社)全国柔道整復師協会　監修 『柔道整復学・実技編』 改訂第2版 (南江堂)
【参考書】	特になし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	解剖学　運動器の基礎医学知識、柔道整復理論

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
柔道整復実技Ⅳ（骨折下肢・体幹）(1/2) ※実務経験のある教員等による授業科目	三上　将貴 接骨院(柔道整復師)6年勤務	担任

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数（時間）】	【授業形態】	【単位】
ﾒﾃﾞｨｶﾙｽﾎﾟｰﾂ柔道整復学科	2	通年	30(60)	実習	2

【授業の概要・目的】

体幹骨折と下肢部骨折の症状、整復法、固定法を学ぶ。

【学習目標（到達目標）】	【受講して得られる力】
①骨片転位を理解し徒手整復を行う。 ②骨片転位を理解して固定を行う。 ③後療法のプログラムについて学ぶ。 ④ ⑤	専門職としてのｽｷﾙ・意識 コミュンケーションスキル 考え抜く力 チームで働く力

【履修上の注意】

回数	授業のテーマ（担当教員）	授業の内容・目標（使用教材等）	授業方法
1	肋骨骨折	症状、転位の確認 整復操作、固定材料の作成	ペア
2	肋骨骨折	固定材料の作成 固定、後療法のプログラムの作成	ペア
3	大腿骨骨幹部骨折	症状、転位の確認 整復操作、固定材料の作成	ペア
4	大腿骨骨幹部骨折	固定材料の作成 固定、後療法のプログラムの作成	ペア
5	第5中足骨基部裂離骨折	症状、転位の確認 整復操作、固定材料の作成	ペア
6	第5中足骨基部裂離骨折	固定材料の作成 固定、後療法のプログラムの作成	ペア
7	第1趾基節骨骨折	症状、転位の確認 整復操作、固定材料の作成	ペア
8	第1趾基節骨骨折	固定材料の作成 固定、後療法のプログラムの作成	ペア
9	松葉づえ 松葉づえ	調節のしかた　接地部のつきかた 平地の歩き方	ペア
10	肋骨骨折復習	症状、転位、整復法、固定法の確認 肋骨骨折のｷｰﾎﾟｲﾝﾄをまとめる	ペア
11	大腿骨骨幹部骨折復習	症状、転位、整復法、固定法の確認 大腿部骨幹部骨折のｷｰﾎﾟｲﾝﾄをまとめる	ペア
12	第5中足骨基部裂離骨折復習	症状、転位、整復法、固定法の確認 第５中足骨骨折のｷｰﾎﾟｲﾝﾄをまとめる	ペア
13	第1趾基節骨骨折復習	症状、転位、整復法、固定法の確認 第１趾基節骨骨折のｷｰﾎﾟｲﾝﾄをまとめる	ペア
14	実技試験		ペア
15	解説・再試験 総復習	各ｸﾞﾙｰﾌﾟで復習	ペア

期末試験	実技試験	評価方法	実技試験　80% 受講態度　20%

【教科書】	（公社）全国柔道整復師協会　監修 『柔道整復学・実技編』 改訂第2版 （南江堂）
【参考書】	特になし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	転位方向正しく理解し整復操作をする。

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
柔道整復実技Ⅳ(骨折下肢・体幹)(2/2) ※実務経験のある教員等による授業科目	三上　将貴 接骨院(柔道整復師)6年勤務	担任

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
ﾒﾃﾞｨｶﾙｽﾎﾟｰﾂ柔道整復学科	2	通年	30(60)	実習	2

【授業の概要・目的】

体幹骨折と下肢部骨折の症状、整復法、固定法を学ぶ。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①骨片転位を理解し徒手整復を行う。 ②骨片転位を理解して固定を行う。 ③後療法のプログラムについて学ぶ。 ④ ⑤	専門職としてのｽｷﾙ・意識 コミュンケーションスキル 考え抜く力 チームで働く力

【履修上の注意】

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	膝蓋骨骨折・分裂膝蓋骨	症状、転位の確認 整復操作	ペア
2	膝蓋骨骨折・分裂膝蓋骨	固定材料の作成 固定　後療法のプログラムの作成	ペア
3	下腿骨骨幹部骨折	症状、転位の確認 整復操作	ペア
4	下腿骨骨幹部骨折	固定材料の作成 固定　後療法のプログラムの作成	ペア
5	果部骨折	症状、転位の確認 整復操作	ペア
6	果部骨折	固定材料の作成 固定　後療法のプログラムの作成	ペア
7	果部骨折	症状、転位、整復操作、固定の確認	ペア
8	踵骨骨折	症状、転位の確認 整復操作	ペア
9	踵骨骨折	固定材料の作成 固定　後療法のプログラムの作成	ペア
10	踵骨骨折	症状、転位、整復操作、固定の確認	ペア
11	下腿骨幹部骨折復習	症状、転位、整復法、固定法の確認 下腿骨幹部骨折のｷｰﾎﾟｲﾝﾄをまとめる	ペア
12	膝蓋骨骨折復習	症状、転位、整復法、固定法の確認 膝蓋骨骨折のｷｰﾎﾟｲﾝﾄをまとめる	ペア
13	踵骨骨折復習	症状、転位、整復法、固定法の確認 踵骨骨折のｷｰﾎﾟｲﾝﾄをまとめる	ペア
14	実技試験		ペア
15	解説・再試験 総復習	各ｸﾞﾙｰﾌﾟで復習	ペア
期末試験	実技試験	評価方法：実技試験 80% 受講態度 20%	

【教科書】	(公社)全国柔道整復師協会　監修 『柔道整復学・実技編』 改訂第2版 (南江堂)
【参考書】	特になし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	転位方向正しく理解し整復操作をする。

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
老年学Ⅱ	藤井　智貴	担任

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
ﾒﾃﾞｨｶﾙｽﾎﾟｰﾂ柔道整復学科	2	後期	15(30)	実習	1

【授業の概要・目的】

高齢者の外傷予防のために老年学を学び、柔道整復師の役割を考え、外傷予防訓練内容を作成、指導法を修得する。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①老年学の要点を説明できる。	知識・理解
②高齢者特有の外傷や疾患を説明できる。	問題解決力
③高齢者に外傷予防訓練を行うにあたり注意点や正しい行い方を考える。	考え抜く力
④仲間の指導法や発想を自分の中に取り入れることができる。	
⑤	

【履修上の注意】

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	老年学とは	加齢、老化の概念を理解する。	個人
2	高齢者の特徴	高齢者の身体的特徴と経時的変化を理解する。	グループ
3	高齢者の外傷	高齢者の外傷と治療法を理解する。	グループ
4	転倒のリスク要因と予防意義 歩行補助具	転倒のリスク要因を考え、予防意義、歩行補助具調べる。	グループ
5	外傷予防訓練の手順	事前アセスメント、個別実施計画を作成する。	グループ
6	外傷予防訓練の手順	実施上の注意、事後アセスメントを考える。	グループ
7	高齢者の外傷予防訓練	高齢者の外傷予防訓練を特徴を理解する。	グループ
8	高齢者の外傷予防訓練	上肢の外傷予防訓練内容を作成し、指導する。	グループ
9	高齢者の外傷予防訓練	下肢の外傷予防訓練内容を作成し、指導する。	グループ
10	高齢者の外傷予防訓練	体幹の外傷予防訓練内容を作成し、指導する。	グループ
11	高齢者の外傷予防訓練	柔軟性向上訓練内容を作成し、指導する。	グループ
12	高齢者の外傷予防訓練	バランス訓練内容を作成し、指導する。	グループ
13	高齢者の外傷予防訓練	持久力向上訓練内容を作成し、指導する。	グループ
14	実技試験		個人
15	老年学まとめ	総復習とまとめ	グループ

期末試験		評価方法	実技試験　90% 受講態度　10%	

【教科書】	(公社)全国柔道整復師協会　監修 『柔道整復学・理論編』 改訂第7版 (南江堂) (公社)全国柔道整復師協会　監修 『柔道整復師と機能訓練指導』 (南江堂)
【参考書】	特になし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	解剖学、生理学などの基礎医学知識。常に運動を考え調べる習慣。

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
臨床実習Ⅱ(1/2)	片桐 秀樹	担任

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
ﾒﾃﾞｨｶﾙｽﾎﾟｰﾂ柔道整復学科	2	前期	23(45)	実習	2

【授業の概要・目的】

座学で習得した知識をもとに臨床技術を高め、臨床における実践的能力及び保険の仕組みに関する知識を修得する。また、施術者としての責任と自覚を養う。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①基本的な実習を指導者の助言・指導のもとに行える	コミュンケーションスキル
②保健・医療・福祉の各分野における役割と責任を理解し、学生として相応しい態度をとれる	問題解決力
③実習を通して、自己の責任と自覚を向上させることができる	知識・理解
④	
⑤	

【履修上の注意】

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	オリエンテーション	臨床実習の流れ、守秘義務、注意事項等を理解する	グループ
2	施術所準備作業	施術所開設準備作業を身につける	グループ
3	施術所内整備、管理	施術所内整備、管理を身につける	グループ
4	物理療法機器の整備、操作	物理療法機器の整備、操作を身につける①	グループ
5	物理療法機器の整備、操作	物理療法機器の整備、操作を身につける②	グループ
6	介助	患者誘導、移乗の介助法を身につける①	グループ
7	介助	患者誘導、移乗の介助法を身につける②	グループ
8	手技療法	手技療法を身につける①	グループ
9	手技療法	手技療法を身につける②	グループ
10	運動療法	運動療法を調べる	グループ
11	運動療法	運動療法を指導する	グループ
12	症例検討	症例検討を行い施術方法を考える	グループ
13	症例検討	症例検討を行い施術方法を実践する	グループ
14	症例検討	症例検討を行い施術録を作成する	グループ
15	社会保障	療養費支給申請書を作成する	グループ

期末試験		評価方法	レポート 80% 受講態度 20%	

【教科書】	特になし
【参考書】	特になし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	予習復習をしっかり行う。		
【本講義に関しての質問先】	学科教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
臨床実習Ⅱ(2/2)	片桐 秀樹	担任

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
ﾒﾃﾞｨｶﾙｽﾎﾟｰﾂ柔道整復学科	2	通年	23(45)	講義	2

【授業の概要・目的】

臨床現場で柔道整復師として必要な知識および技術を学ぶ

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①問診、視診、触診を身に付ける	専門職としてのｽｷﾙ・意識
②症例のキーワードから疾患を導き出す	コミュンケーションスキル
③患者にあった治療、指導管理を考える	チームで働く力
④	考え抜く力
⑤	問題解決力

【履修上の注意】

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	ウィンタースポーツケアプログラム①	基本的身体構造の理解とストレッチの活用について学ぶ	グループ
2	ウィンタースポーツケアプログラム②	ウィンタースポーツで必要とする体幹機能について学ぶ①	グループ
3	ウィンタースポーツケアプログラム③	ウィンタースポーツで必要とする体幹機能について学ぶ②	グループ
4	ウィンタースポーツケアプログラム④	ウィンタースポーツで発生する怪我について学ぶ①	グループ
5	ウィンタースポーツケアプログラム⑤	ウィンタースポーツで発生する怪我について学ぶ①	グループ
6	ウィンタースポーツケアプログラム⑥	ウィンタースポーツで発生する怪我の応急処置を学ぶ①	グループ
7	ウィンタースポーツケアプログラム⑦	ウィンタースポーツで発生する怪我の応急処置を学ぶ②	グループ
8	ウィンタースポーツケアプログラム⑧	医療従事者の資格取得を目指すべく職業倫理等を学ぶ	グループ
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

期末試験	レポート	評価方法	レポート 60%	授業への貢献 20%
			受講態度 20%	

【教科書】	(公社)全国柔道整復師協会　監修 『柔道整復学・実技編』 改訂第2版　(南江堂)
【参考書】	特になし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	予習復習をしっかり行う。

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて